

友人代表の手紙

【 手紙の構成 】

< 出だし >

1. はじめの言葉
2. 個人の死に対する驚きと悲しみを表す

< 結び >

7. 遺族への励ましと慰め
8. 冥福を祈る結びの言葉

< 主題 >

3. 故人の人柄を表す
4. 故人の功績や業績を讃える
5. 故人とのかかわりやエピソード
6. 残された者の責任と故人への誓い

【 社長への手紙 (社員代表) 】

< ポイント >

形式と格式をふまえたうえで、故人の功績、業績を称賛し、故人から受けた恩恵や尊敬すべき点、損失の大きさなどを述べます。

(文例)

株式会社 社長 様の御母堂 様のご霊前に、胸の張り裂けそうな悲しみと、尽きぬお名残惜しさを込めて、お別れの言葉を述べさせていただきます。

最後にお会いいたしましたのは、一ヶ月ほど前のことでございましたでしょうか。病院へお見舞いにあがりました時には、思いのほかお元気そうで、かえってわたくしどもの家族のことなど、いろいろ気にかけておたずね下さった程でございます。また、じきにお伺いするとお約束して、おいとまいたしましたのに、取り紛れておりました、なかなかお伺い出来ないうえ、この度ご逝去のお知らせをいただき、驚きと悲しみにくれながら、せめてもう一度なりとお目にかかりたかったと、返らぬことを悔やんでおります。

社長 様とは、子供の頃から仲良くしていただいております、そのお母様の 様は、わたくしも娘同様に大変に可愛がって下さいました。そればかりではなく、わたくしに取りましては、いつも素敵なお洋服を作って下さるおば様として、あこがれの方でもあったのでございます。

様は、ご主人 様のお父様を早く亡くされまして、女手一つで、洋服店を経営なさりながら、様をご立派にお育てになったのでした。

様は、外国にも名の通ったデザイナーとして、いくつものブティックをお持ちになる女流実業家として、ご活躍になっておられますが、このご繁栄の土台には、お母様のひとかたならぬご努力がおりになったものと拝察いたします。

様は、充分ご苦労に報いられるご生涯であったと存じますが、様のことは「いくつになっても気がかりで」といつもおっしゃっていらっしやいました。まことに、わたくしなどは、いたらぬ者ではございますが、昔からお親しくさせていただいているご縁で、これからもお話相手くらいにはさせていただきますと存じております。

長い年月、喜び悲しみをともにしていらっしやいました母子であっても、いずれはこうした別れの日を迎えねばならぬとは、現世の定めながら、様のご悲嘆ほどのようなものであろうかと、今は慰めの言葉もありません。

お仕事のお忙しさを、せめてもの救いになさるしかないかも知れませんが、それも度が過ぎて天国のお母さんに心配をおかけにならないよう、くれぐれもお体に気を付けて下さいませ。

こうして 様のお優しい微笑を浮かべられたお写真を前に致しておりますと、つい涙が先に立ちまして、言葉も乱れがちでございます。何卒お許し下さいませ。最後に、心から 様の御霊のご平安をお祈り申し上げます。